

様式B

令和7年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立西脇幼稚園

教育目標

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況	
「生き生きと主体的に生活する子どもを育てる」	豊かな環境の中で子どもの主体性を尊重する教師の援助について	豊かな環境	四季の変化や自然の美しさ、不思議さなどを感じられるような環境構成の工夫をする。 豊かな感性や心情を育み、子ども達の興味や関心が広がっていきけるような環境構成の工夫をする。 身近な動植物に触れ合ったり、季節の野菜などを育てたりすることで豊かな体験活動ができるようにする。	四季折々の身近な自然物を遊びに取り入れ、様々な事象に興味や関心をもてるようにしてきた。身近な自然物を遊びに取り入れ、自分から関わりたくなるような環境を工夫することで、遊びが深まり、発見や気付きを友達と共有しあう機会になっている。 遊びの中で子どもたちが、やってみたい、不思議、どうしてと感じられる体験を大切にしてきた。子供たちのつぶやきや気付きを共有し、遊びがより深めているように環境構成や援助に心掛けきた。 季節の野菜を栽培し、保護者と一緒に植えたり収穫することで、一緒に生長を共有することで、食育にもつながっている。園庭や池では、生き物と触れ合うことで、自分で図鑑で調べたりするなど、興味関心が広がっている。
		主体性を育む	十分に遊びこめる時間や場所、物に配慮し、子ども達の自発的な遊びを生み出せるようにする。 子どもの思いや考えを大切に環境構成をしていくことでより意欲的に生活できるようにする。 教職員で話し合うことで、子どもの姿を多面的に捉え、より良い援助が出来るようになる。	自分で好きな遊びを見つけ、しっかりと遊び込める時間を確保し、考えたり、試したり、工夫したりする力が育めるように環境構成を行い、満足感や充実感が感じられるようにしてきた。 教師が子供の主体性を尊重することに意識し、子供の思いや気持ちに寄り添う姿勢を大切にしながら保育してきた。子供たち同士も心通わせ、相手の気持ちに気付けるような思いやりの心が育まれているように感じる。 子供の姿を多面的に捉えていくことで、一人一人の育ちを肯定的に捉えられるようになり、子供たちは安心感の中で、自己肯定感をもち、伸び伸びと園での生活を楽しめるようになる。
		人とのつながり	小学校との交流を通して、小学校生活に期待をもったり、異年齢友達と関わったりする楽しさを味わえるようにする。 散歩や園外保育を通して、地域の方との触れ合いを大切にしたり、自分の生活に関係の深い人に親しみをもてるようにする。 園だよりクラスだより等を通して、子どもの様子を伝えることで園の思いや考えを広めていく。	園庭を開放し小学生との自然な交流が出来るようにしてきた。合同運動会を行い、幼児期と児童期をつなぐ実践にひとつになった。また、小学校の授業を参観したり、幼稚園の研究保育に参加するなど、互い教育観を深められる機会を持つことが出来た。 地域の自然、公園、電車など地域資源を活用し、地域に見守られている安心感をもったり、親しみを持ったりできるようにしてきた。畑で育てた収穫物を地域の方や日ごろお世話になっている給食員さんに受け取ってもらい喜んでもらうことで、人とのつながりを感じる機会になっている。 遊びでの子供の成長や学び、育ちについて園だより、クラスだより、ホームページ等で知らせ、また保護者の方からは、家庭での様子を伝えてもらうなど、子供の育ちを共有し保育に活かせるようにしてきた。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

評価アンケートは全員の方にご提出していただき、全員の方がすべての項目において、とてもそう思う、そう思うと高評価をつけていただいている。園と保護者が同じ方向性を向いていることが示されている。子供たちが試したり、考えたりできる環境があることで、より遊びが深めることが出来、一人一人の育ちにつながっていると評価が得られている。今後も保護者と幼稚園の連携を大切に子供の成長を共有していきたいと考えている。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

今年度は、子供たちの主体性の捉え方を共通理解を深め、一人一人の子供たちがよりよい育ちが出来るように同じ方向性で援助を行うことを意識し保育を進めてきた。教師との関わりがその園の雰囲気にもなり、子供たちにも大きな影響を与えることも意識し、子供たちと関わる際には、ゆったりと関わり、対話を大切にしてきたことで、子供たちは、思いや考えをだし、自分のペースで園生活を楽しめるようになってきている。今後も子供たちが意欲的に生活することを楽しみ、自己肯定感を高めていけるような保育を行うよう努めていきたい。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

少人数ではあるが、そのメリットを活かし、一人一人の子供たちの良さを十分に活かされていると感じる。教師の子供の力を信じて待つという姿勢は大切であり、一人一人が大事にされている保育であるということが伺える。異年齢との関わりがあることで、人とのつながりも深まり、心も社会性も育っていくのではないかとと思われる。また地域の学校や園との交流を行うことで、子供たちは、地域とのつながりを大切に感じ親しみをもつ機会になっている。